

今週（1月11日から1月14日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み最終週ということもあって、着地に向けた調整から、地銀業態の調達ニーズはやや減退した。先週末対比で無担保コールO/N加重平均レートは低下した。週初は邦銀勢を中心に▲0.03～▲0.003%の出合いが始まった。週半ばになると調達の目途が付いた先が増加し、▲0.045～▲0.005%の出合いとなった。週末14日は積み最終日と新積み期にかかる3日積みとなったため、調達ニーズが若干強くなり、加重平均レートは上昇した。ターム物は、ショートターム物で▲0.02～▲0.01%付近での出合いが散見された。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、▲0.09～▲0.07%出合いと横ばい圏で推移した。11日のT/Nは▲0.085～▲0.08%の出合い。12日は5年債入札があったことから後場ビッドが薄くなる場面もあり▲0.085～▲0.065%の出合い。13日は3日積みとなり、積みの末初を挟む展開となったもののレートは落ち着いた展開で、▲0.085～▲0.075%出合い。14日のT/Nは短国3M物の発行があったものの特段レートは変わらず、▲0.085～▲0.08%での出合いだった。

SCについては、2y422～432、5y140～149、10y349～365、20y177～178、30y70～72、40y13～14 などカレント銘柄を中心にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は動意なく閑散な中、レートは横ばい圏で推移した。

12日に実施された短国買入オペは、前回から4,000億円増額の5,000億円でオファーされ、やや弱めの結果となった。

14日に実施された3M物の入札は、弱めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、15日を挟む発行がある中、電気機器・建設・食品・鉄鋼等の複数業態で大型発行があり、活況な市場となった。投資家の担保需要は引き続き強く、マイナス圏での出合いが中心であった。週間の金額ベースで見ると、5,900億円程度の償還に対して、1兆400億円程度の発行と発行超となった。市場残高は順調に増加しており、25兆円台前半から半ばで推移している。発行レートについては、日銀の適格担保銘柄は概ねマイナスで決着している。一方で、新型コロナオペの民間債務担保分が2022年3月末で終了することから、6M物以上の期間が長い銘柄に対しては若干ビッドが弱くなっていた。

14日には、CP等買入オペが予定通り5,000億円でオファーされ、按分落札レート▲0.012%、平均落札レート▲0.010%の結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
1/10 (月)						
1/11 (火)	28,222.48	0.150	115.32	△ 0.014	△ 0.087	5,369,400
1/12 (水)	28,765.66	0.125	115.33	△ 0.021	△ 0.087	5,382,100
1/13 (木)	28,489.13	0.125	114.66	△ 0.021	△ 0.087	5,358,000
1/14 (金)	28,124.28	0.145	114.00	△ 0.020	△ 0.085	5,349,100

来週（1月17日から1月21日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
1/17 (月)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00～) 11月の機械受注統計(内閣府 8:50) 11月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)				New York祝日 (Martin L.King Jr.'s Day)
1/18 (火)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望				
1/19 (水)	11月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB1Y 35,000億円 1/20発行	流動性供給 4,000億円 1/20発行	交付税借入 11,000億円 1/28借入	12月の米住宅着工件数 12月の英消費者物価指数
1/20 (木)	12月の貿易統計(財務省 8:50)				12月の米中古住宅販売 12月のユーロ圏消費者物価指数改定値
1/21 (金)	12月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 金融政策決定会合議事要旨(12月16・17日分 8:50)	TB3M 50,000億円 1/24発行	流動性供給 5,000億円 1/24発行	交付税借入 11,000億円 2/1借入	

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/17 (月)	1,800	▲ 23,900	▲ 22,100	国債補充 CP買入	200 ▲ 500		▲ 300	▲ 22,400	TB3M発行▲50000償還50000 20Y発行▲12000 個人向け国債3・5・10Y発行▲3200 償還2300
1/18 (火)	1,000	3,000	4,000	全店共通	▲ 3,800		▲ 3,800	200	交付税借入▲11000期日11000
1/19 (水)	1,000	2,000	3,000	CP買入		5,000	5,000	8,000	
1/20 (木)	0	▲ 25,000	▲ 25,000				0	▲ 25,000	TB1Y発行▲35000償還12400 流動性供給▲4000 エネルギー対策借入▲6500期日5500
1/21 (金)	0	1,000	1,000				0	1,000	
週間合計	3,800	▲ 42,900	▲ 39,100	—	▲ 4,100	5,000	900	▲ 38,200	

1/17は日銀予想、1/18以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新しい積み期間に入る。基準比率は大幅に減少するものの（12月積み期間10.0%→1月積み期間5.5%）地銀業態を中心に調達ニーズは強く、無担保コールO/N物加重平均レートは強含みの展開が続くと予想する。レポ市場は、GC T/Nは、▲0.10～▲0.07%程度と概ね横ばい圏での推移が予想される。短国市場は、19日に1Y物、21日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。17日に実施が予想される短国買入オペのオフ額にも注目したい。CP市場は、20日・25日スタートの発行日を含む週となり、発行が集中することが予想される。

主要なイベントは、国内では17～18日に金融政策決定会合、21日に12月の全国CPI、海外では19日に12月の英消費者物価指数が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。